

指定校番号	30040	学級活動	生徒会活動	<input type="radio"/> 学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	----------------------------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	大田 稔	生徒指導主事	小田 一治
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『体育祭』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「先輩と後輩の良好な関係」 「学級の団結力」	2	「主体性・積極性・責任感」	3	「自己肯定感」	1

取組のねらい 『体育祭から学ぶ。』

体育祭に主体的に参加することによって，3年生は「リーダー学年としての意識」，2年生は「先輩として1年生に見せるべき姿」，1年生は「海田中学生としてのあり方」を学ぶ場とする。

取組の具体的内容 『リーダーを中心とした運営』

体育祭で行う入場行進，応援演技などを3年生の団長や応援リーダーが中心となり，1・2年生に指導した。また，学年の競技に関しては各クラスのリーダーが中心となり，学級の生徒をリードした。それぞれの練習の前後に教員とのミーティングを密に行い，より効果的な練習を行うことができた。また，3年生は全体練習にかかわる道具の準備なども積極的に行った。



取組の課題・創意工夫 『リーダーと教員の連携』

生徒に様々な取組を任せる上で，演技の内容が全校生徒にとって難しすぎたり，簡単になりすぎたりしないように保健体育科，3学年の担任を中心に，リーダーとして活動する生徒たちと連携を取り合った。その結果，体育祭の各練習は生徒のやる気を引き出す，非常に充実したものとなった。生徒の実態を把握した上での教員の生徒の関わりによって，生徒が上手く流れに乗り，生徒，教員ともに前向きに練習に取り組むことができた。

取組の成果（効果）『一体感』

本校では、育てたい資質・能力の育成を測る一つの指標として、全校生徒を対象とした意識調査アンケートを行っている。このアンケートの項目の一つに、「自分にはよいところがあります」の項目があるが、生徒の肯定的な評価の割合が、平成29年12月の調査では66.6%であったが、平成30年12月の調査では77.0%となり、10.4ポイント上昇した。

同様に、教職員にもアンケート調査を行ったが、「(生徒が)行事に積極的に取り組んだと思います」の項目における肯定的な評価が83.0%と高い割合であった。

体育祭を終えた後、1・2年生の感想からは、リーダーとして取り組んだ先輩に対する感謝の声が多くあげられた。また、教職員も体育祭に向けたたくさんの場面で生徒との一体感を感じることができ、体育祭に向けた取組は、学校全体のあたたかい雰囲気づくりにつながったと考える。このような活動を通して芽生えた雰囲気は、その後の学級や学年での取組を挟みながら、文化祭での学級の取組にも生かされ、現在もさらなる好循環につながっている。

アンケート結果や感想は、あくまで育てたい資質・能力の育成を測るための指標の一つではあるが、これまで自分に自信を持てていなかった生徒の中にも、体育祭をはじめとする今年度の取組から、本校が最も力を入れて育成を目指している自己肯定感の高まりにつながっているという手ごたえを感じている。



今後の展開『型ができたからこそその進化』

体育祭での応援演技は、生徒が3年生を中心に主体的に活動する場として位置付けている。昨年度までは応援演技のあり方が練習期間の短さから定まらず、大きな課題であった。しかし、今年度の取組で生徒が応援演技で主体的に活動するための型は作ることができたと考える。その型をもとに、より発展した体育祭の取組を行っていきたい。

他教科との関わり『時間厳守』

本校の体育祭は5月に開催される。その練習の取組で時間を守ることや話を聞く態度などのルールやきまりに対する意識を、リーダーを中心に生徒主体で高めることができた。これは、現在も日常の授業に生きており、特に時間を守る意識に関しては生徒の方から声上がることも少なくない。このような部分が整ったことは生徒の授業での様子によい影響を与えている。